

DIGITABLE 第 28 回勉強会レポート

2009 年 9 月 19 日 於：森下文化センター（第二研修室）



(レポート撮影：鈴木利男 会員)

デジタルフォト基礎講座 < 実践編 > 5

高木 大輔 講師

「小型ストロボによる人物撮影テクニックと一眼レフによるステッチング高画素撮影」

(会員発表) 「海外紀行 (アメリカ西海岸)」本編

山口 明夫 会員

Photoshop 研究講座 「W モニターによる作業環境の改善」

平野 正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

デジタルフォト基礎講座 < 実践編 > 5 「小型ストロボによる人物撮影テクニックと 一眼レフによるステッチング高画素撮影」

担当：高木 大輔 講師

今回は年間プログラムからの番外編として、夏合宿の講義の復習および検証である。

○ 8/22 日講座：小型ストロボの利用法

デジタル一眼レフ（以下 DSLR = Digital Single Lense Reflex Camera）の時代になって、フォーマットや画質特製の問題、かつ最近の DSR の高感度特製の向上により、フィルム時代ほどの大光量が必要なくなり、小型ストロボの利用範囲は広がっている。

デジタルならではの利点で、写り具合も瞬時にモニターチェック出来るので、積極的に“ひと工夫”してみよう。

■内蔵ストロボの活用

一般用の DSR にはほとんどの機種にリトラクタブルタイプの内蔵ストロボが付いているが、はめ込み式の小さな「バウンズボード」を自作すればたいへん重宝だ。元々は外部ストロボへのコード接続がめんどろな場合のスレーブ発光用だが、全反射ではなく多少の透過拡散光も得られるよう素材と形状を工夫みよう。

■「影とり」(Kenko 製)

自作バウンズボードの透過効果を大きくしたような製品がケンコーから発売されている。たいていのレンズにワンタッチで装着でき、内蔵ストロボだけでなく小型のクリップオンストロボも使用できる優れたものだ。

発光面の大きさも充分で、かなり拡散効果も大きい。丸レフのようにひねってコンパクトに収納でき携行にも便利だが、装着時はちょっと大仰で人目が気になるかも知れない？。昆虫、花などのマクロ的な撮影はもちろん、ペットや子供の撮影には便利だろう。



ステッチング撮影を実演する、高木大輔講師



図 63：「影とり」(Kenko 製：260 × 260mm)

なかなか効果的で携行にも便利だが、撮影スタイルを気にする向きには…？

■サンパック・ディフューザーキット

LとSがセットになっていて取り付け用のマジックテープが付属している。取り付け方法もよく工夫されていて、数種類の違うストロボに使用してみたがほとんど問題はないようだ。拡散の効果も十分に大きく、素材が優れていてディフューズによる色かぶりもほとんど気にならないのも◎。

■クリップオンストロボのバウンズを使いこなす

手持ちのクリップオンストロボのバウンズの可動範囲を確認しておこう。多くのストロボは縦位置の左回転時に限界がある。(90度までしか回転しない) このため縦位置の構え方にも留意が必要だ。画素数等は落ちてても、効率重視で横位置で撮影しトリミングするような割り切りも時には必要だ。

バウンズは上部だけでなく、側面や背面へのバウンズも有効で、積極的に利用したい。DSLRならではのモニタ確認で、失敗してもすぐに対処できる。

※レポーター注：合宿時の会員モデルを使ったストロボ作例が発表されましたが、掲載は略します。



手持ちのクリップオンストロボのバウンズの可動範囲を確認しておく(※写真は Panasonic PE36S)
左写真のように多くのストロボは縦位置の左回転時に限界があり、(90度までしか回転しない=背面照射が出来ない)



ステッチング撮影を体験する会員達

8/23 日講座：(コンシューマー DSLR による) ステッチング撮影による高画素撮影

旧4×5カメラを利用したステッチング撮影による高画素撮影の方法を解説する。味気ない昨今の効率主義のデジタル撮影とは一味違った撮影が楽しめる。アナログ技術・デジタル技術混在の方式で、いわば今流行の“ハイブリッド”撮影である。

■ステッチング撮影の原理

大型カメラは広い「イメージサークル」(=撮像範囲)を持つ。例えば4×5カメラの場合最低でも直径170mm以上(レンズにより異なる)の結像が得られている訳で、この撮像範囲内でデジタルカメラのイメージセンサーをシフト(ずらして)していけば、原理的には全くずれの無い、広大な画像を得ることが出来る。

35mmフルサイズDSRの場合約36mm×24mmのセンサーサイズなので、4枚程度のステッチングなら4×5のイメージサークル内の中央部を使用することとどまり、光学的には全く問題ない筈だ。

原理的には「億単位」の画像も十分に得られるはずだ。

■ステッチングの二方式

問題は狂いなくカメラを正確にシフトしていくことにあるが、ここではビューカメラの特有のムーヴメント機構を利用すればよい。このムーヴメントには、水平、垂直の二方向があるが、カメラの製作方法を含め、このあたりの工夫と詳細は当勉強会参加者の特権情報としておこう。

とにかく思いのほか軽快な撮影が楽しめる。発表では合宿時の作例と簡単な作業方法も解説したので、ステッチング高画素撮影の魅力も十分に皆さんにお伝えできたかと思っている。



4枚つなぎステッチングの途中経過(4800万画素)



合宿時の屋外でのステッチング撮影風景



合宿授業でのPC接続によるステッチング作例
4800万画素あり、画面表示で見ると限りほぼ無限に拡大できる感じだ(言われなきゃ分からない?)

(コメントや意見の追加をお願いします)

(会員発表) 「海外紀行 (アメリカ西海岸)」本編

担当：山口 明夫 会員

七月に続き山口会員から海外紀行の発表があり、今回は「アメリカ西海岸編」である。

ぐいぐいと作品を撮るのではなく、あくまで旅を楽しみながら、風俗や食事なども効果的におりこんでいる。氏の豊富な知識と軽妙なウィットに富んだ解説で、カリフォルニアの風を感じながらの楽しい発表となった。



山口 明夫 会員



撮影地と行程を説明



Photoshop 研究講座 「W モニターによる作業環境の改善」

担当：平野正志 講師

フォトショップで作業しているとき、いくつかのファイルを開いたり、いくつもウインドウを開いたりすると、重なって肝心の画像が見えなくなったりしてしまう時がある。二台をつないだところ広くモニター画面を使えるメリットがあるのが気に入って、同じものを二台並べることにした。

2台のモニターは、同じものを表示することもできれば、2台をつないだ状態で表示することもできる。2台をつなぐと非常に広く使用でき、たくさんのサムネイルファイルを一度に表示するなど便利だ。

面白いことに開いたファイルなどは、フォトショップの作業領域の外に出すことが出来て、そのまま作業することもできる。作業空間で間に合わない、幾つものファイルを画面外に開いて作業できる。

シルキーピックスとブリッジを両方表示して同じホルダーを開いてみる。シルキーピックスは画像データのみ表示、ブリッジはほかのアイコンも表示している。同様にワードを開いておいてフォトショップを開く場合など並べて表示できるだけの広さがあるというのは大変便利だ。

特に別のソフトを開いて二つのソフトの間を行き来しながら作業する場合などには、広いデスクトップは大変便利に感じる。



平野正志 講師



二台分をつなげれば広大な作業領域



シルキーピックスとブリッジを両方表示して同じホルダーを開いてみる 他ソフトとの連携はたいへん便利

一つのソフトを二つの画面いっぱいに広げた場合、いわば一台分の画面が横長になった感じになるので、左右の幅が広い分、やりにくさも生じるようだ。フォトショップなどで左の画面で作業しているときに、単純な作業ではレイヤーなどの調整ツールが右端にあるので、広すぎてやりにくい。使い方にもよるが便利な面も逆の面もあるように感じる。

作業によっては一画面だけで作業するようにするなど、臨機応変な調整も必要だろう。

片方のモニターにはサムネイルを表示しておいて、片方で作業するなどにはよいだろう。

二つのモニターを使うことで、メモリーなどをだいぶ使うかと思ったが、さほど変化はないようだ。もちろんたくさんファイルを開いておけば別だろうが、通常の作業で表示だけが違うということであれば、表示している分ではさほど変わらないのだろう。当然表示電力は多くかかる。その分省電力設定を強めに設定すればよいだろう。

※レポーター注：尚、発表の最後には平野講師の自室の作業環境が写真つきで解説があった。さまざまな工夫に満ち溢れた空間はさながら現代のデジタル哲人の“コクピット”のようで、会員達の興味はつきなかった。最後のホームルームでは井村会員から、夏合宿の会計と報告と、ブログ上にまとめた夏合宿レポートの報告があった。

(コメントや意見の追加をお願いします)



NVIDIA グラフィックボードによる二つのモニターの基本調整。「デスクトップカラーの調整」とあるモニターの使用方法なども決定すると同時にコントラスト明るさなどの調整もできる。二台のモニターで同じ設定にしている。



三菱のモニター付属のキャリブレーションソフト「イージーカラー」印刷された写真が付属しており、画面を見ながら色調を選択したりできる



授業後のホームルームでは井村会計により、夏合宿の報告が行なわれた



今月の一枚：哲人の“コクピット”